第５次レッドデータブック：
絶滅のおそれのある日本の野生生物

The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan

サドガエル

Glandirana susurra (Sekiya, Miura et Ogata, 2012)

福山欣司（慶応義塾大学）

絶滅のおそれのある野生生物の選定・評価検討会　爬虫類・両生類分科会

環境省 編

令和８（２０２６）年３月

特に文献内で別途指定がない限り、この文献はクリエイティブ・コモンズ 表示 4.0 国際ライセンスの下に提供されています。

https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/deed.ja

種毎の解説を引用する場合には以下のように記述してください。

引用表示：福山欣司，2026．サドガエル．環境省（編）第５次レッドデータブック：絶滅のおそれのある日本の野生生物，pp. 352-356.

Citation: Fukuyama, K., 2026. *Glandirana susurra* (Sekiya, Miura et Ogata, 2012). *In*: Ministry of the Environment, Japan (ed.), *The 5th Red Databook, Threatened wildlife of Japan*, pp. 352-356.

無尾目 Anura　アカガエル科 Ranidae　　日本固有

サドガエル

***Glandirana susurra* (Sekiya, Miura et Ogata, 2012)**

カテゴリー判定結果　絶滅危惧ⅠA類（CR）　B2ab

基準 A:　—	基準 B:　CR	基準 C:　—	基準 D:　—	基準 E:　—

B2．生息地面積が 10 km²未満であると推定されるほか、次の兆候が見られる。
a) 生息地が過度に分断されているか、ただ 1 か所の地点に限定されている。
【過度に分断】
これまでの現地調査により国中平野のごく限られた水田とため池にしか生息していないことが確認されている。残存する小集団のどの生息地にも連続性がなく、絶滅リスクが高い状態にある。
b) 出現範囲、生息地面積、生息地の質、生息地点数、成熟個体数のいずれかに継続的な減少が推定・予測される。
【判断理由】
平成 29 年度調査から、数年間で生息場所の減少（62 か所→41 か所）が確認されており、今後の圃場整備等の影響により、更に生息地が分断化されていく可能性が高い。さらに、もっとも生息密度の高い新貝地区では、令和 5 年度から大規模（約 140 ha）な圃場整備が 8 年計画で開始されている。この他、ウシガエル・オオクチバスなどの外来種が定着した環境での本種の確認事例はなく、各下位個体群の減少が予測される。以上のことから、生息地面積や成熟個体等について、継続的な減少が容易に予測される。

評価分科会：　爬虫類・両生類分科会

概要

本種は佐渡島のみに分布している。おもに水田やため池に生息し、水辺を離れることは少ない。5 月中旬頃から夏場にかけて産卵するが、幼生は年内に変態せず、翌年の夏頃に変態すると考えられている。そのため、本種の生息条件の 1 つとして年間を通した水辺の存在が重要となっている。本種は、典型的な水田依存性生物であるため、圃場整備や中干しなどによる水田環境の悪化の影響を強く受けている。国中平野には約 6,000 ha におよぶ広大な水田が広がっているが、本種は水環境の良好な極限られた場所にしか生息しておらず、見つけることが困難なほどである。一方、もう一つの重要な生息地であるため池も、ブラックバスやウシガエルなどの外来生物の侵入が続いており、危機的な状況となっている。

協力者:　宅森美優（昭和大学 富士山麓自然・生物研究所）・小林頼太（東京環境工科専門学校）

基礎情報

【形態】

体長はオスで 40 mm、メスで 45 mm ほどである。ツチガエルに似るが、皮膚は滑らかで、腹面が黄色みを帯びることなどから容易に識別できる。背面には細長い隆条が散在し、その隙間には小さな顆粒状突起が広がる。後肢腹面には暗褐色の斑紋がある。後肢趾間のみずかきはよく発達している。

【生活史】

水田やため池などに生息し、水辺を離れることはほとんどない。繁殖期は 5 月から 8 月。水田やその周辺の用水路などで繁殖する。オスは鳴嚢をもたず、鳴き声は長く続く。メスは数十個ほどの卵からなる卵塊を、水中の植物などに付着させるように産卵する。孵化した幼生は水田や水路などで成長し、越冬して翌年に変態すると考えられている。佐渡島ではツチガエルと生殖隔離されており、人工交雑すると雑種は異常になる。

【生息環境】

佐渡島の水田やため池に生息する。既知の生息場所は水田 36 か所、ため池 26 か所、互いに分断している。国中平野の広い範囲に水田はあるが、本種はごく限られた水田にしか生息しない。似たように見える水田あるいは、隣接する水田であっても、本種の生息が確認できない。解明できていない生息条件があるもと推測される。なお、ウシガエルが侵入しているため池には本種が生息していないことが分かっている。

生息環境区分：	【陸域_低標高地】田地・畑地，ため池・池沼 【陸域_平地部】田地・畑地，ため池・池沼
国土地域区分：	(2) 里地里山・田園地域，(7) 島嶼地域

【分布域】

佐渡島のみに生息する。

現在の生息状況

【分布域の現況】

佐渡島のみに生息する。出現範囲に大きな変化はないが、圃場整備等の影響によって生息地の分断化が進行している。

【生息地の現況】

平成 29 年度調査から、数年間で本種が見られる場所は減少（62 か所→41 か所）したことが確認されており、今後の圃場整備等の影響により、更に生息地が分断化されていく可能性が高い。もっとも生息密度の高い新貝地区では、令和 5 年度から大規模な圃場整備が 8 年計画で開始されている。この他、ウシガエル・オオクチバスなどの外来種が定着した環境での本種の確認事例はなく、各下位個体群の減少が予測される。以上のことから、生息地面積や成熟個体等について、継続的な減少が容易に予測される。

【個体数の現況】

孤立した個体群がほとんどで、個体数は安定していないと推定される。国中平野の水田では、大規模な圃場整備が進行中で、個体数が減少すると推測される。

存続を脅かす要因

本種の生存を脅かすおもな要因として、圃場整備に伴う水田の乾燥化、コンクリート製水路による移動の妨害、農薬などによる餌資源の減少、中干しによる幼生生育場所の消失などが挙げられる。また、ため池においては外来種の侵入や管理放棄による植生変化などが本種の存続を脅かしている。

要因の区分：	（過去）	湿地開発，圃場整備，農薬汚染/化学物質汚染，捕食（外来種による），捕食（在来種による），分布・産地局限
	（現在）	湿地開発，圃場整備，農薬汚染/化学物質汚染，捕食（外来種による），捕食（在来種による），分布・産地局限，その他（水田の中干し）

特記事項

特になし。

旧レッドリストカテゴリーと掲載名

第４次 2020：	サドガエル	*Glandirana susurra*	EN
第４次 2019：	サドガエル	*Glandirana susurra*	EN
第４次 2018：	サドガエル	*Glandirana susurra*	EN
第４次 2017：	サドガエル	*Glandirana susurra*	VU
第４次 2015：	—	—	—
第４次：	—	—	—
第３次：	—	—	—
第２次：	—	—	—
第１次：	—	—	—

都道府県レッドリスト・レッドデータブック掲載状況（令和６年度末時点）

【新潟県】準絶滅危惧(NT)

保護に係る法令指定状況（令和７年度末時点）

指定なし

参考文献

- 岸本圭子・満尾世志人，2020．佐渡島固有種サドガエルの保全に向けて．爬虫両棲類学報, 2020: 178-185.
- Kishimoto-Yamada, K., R. Satoh, M. Kokura, Y. Mitsuo, 2025. Where does the island-endemic frog *Glandirana susurra* survive during the nonirrigated seasonμm Agriculture, Ecosystems and Environment, 381: 109433.
- 松井正文・前田憲男，2018．日本産カエル大鑑．文一総合出版，東京．272pp.
- Miyu, T. R., M. Soga, Y. Saito, M. J. Evans, R. Kobayashi, K. Sekiya, A. Tanikawa, T. Miyashita, and K. T. Yoshida. 2022. Conservation genetics of the endangered Sado wrinkled frog *Glandirana susurra* reveals strong regional endemism and population bottlenecks. Wetlands, 42(7): 66.
- 日本爬虫両棲類学会（編），2021．新 日本両生爬虫類図鑑．サンライズ出版，彦根．232pp.
- 関谷國男，2022．サドガエル．佐渡市生活環境課環境対策係（編），佐渡島のの希少な動植物 普及版レッドデータブック，pp. 24．佐渡市.

アセスメントサマリー（Assessment summary）

Glandirana susurra has been assessed for threatened wildlife of Japan Red List 5th edition. *Glandirana susurra* is listed as CR under criteria B2ab.

B2. Area of occupancy estimated to be less than 10 km², and estimate indicating at least two of a-c:

a. Severely fragmented or known to exist at only a single location.

b. Continuing decline, observed, inferred or projected, in any of the following:

(i) extent of occurrence

(ii) area of occupancy

(iii) area, extent and/or quality of habitat

(iv) number of locations or subpopulations

(v) number of mature individuals

Habitat types:	【Terrestrial/Freshwater area_Low-altitude area】Farmland, Reservoir/Pond 【Terrestrial/Freshwater area_Plain】Farmland, Reservoir/Pond
Threat types:	Wetland development, Field preparation, Pesticide/Toxic chemical pollution, Predation (by alien species), Predation (by native species), Limited distribution, Other
Law designation status for conservation	—





執筆者:	福山欣司（慶応義塾大学）
Author:	Kinji Fukuyama

公表年月：2026 年 3 月